

波崎ピーマン研究会が現地ほ場巡回を開催

波崎ピーマン研究会は、平成2年に有志のピーマン生産者で結成された組織で、月に1回現地ほ場の巡回やピーマン生育状況と栽培管理についての意見交換を行い、栽培技術の向上を目指しています。令和7年10月20日（月）、生産者8名のほ場を巡回し、硝酸態窒素とカリウムのリアルタイム栄養診断による生育確認を行うとともに、最近の害虫の発生状況や対応策について情報交換しました。普及センター職員からは、特に、最近産地で問題になっている「チャノホコリダニ」と「チョウ目害虫」の防除方法について説明し、害虫をハウスに入れないことが最優先だと強調したうえで、農薬の効果的な使用方法について説明を行いました。また、「チャノホコリダニ」が発生しているほ場では、10月下旬の気温の場合、「チャノホコリダニ」の生活環が7日であることから、農薬散布は、7日おきに連続で行うことが効果的だと説明しました。

これまで産地では、「チャノホコリダニ」、「シロイチモジヨトウ」の大きな被害は認められていなかったことから、対応が後手にまわり被害が甚大になる恐れがあります。普及センターでは、随時、害虫の早期発見と対策に関する情報提供を行います。

銚田地域農業改良普及センター（成長産業）



写真 ピーマンの害虫被害の様子

チャノホコリダニ（左）、シロイチモジヨトウ（右）